

第 2 回通訳案内士研修の高度化に関する検討会（結果概要）

観光庁観光地域振興部観光資源課

今年度より観光庁では、訪日外国人旅行者の多様なニーズに対応できる受入環境整備の一環として、「通訳案内士専門性研修支援事業」を開始し、通訳案内士制度に関わる関係者で構成された「第 2 回通訳案内士研修の高度化に関する検討会」を開催しました。本検討会では、平成 23 年度の「通訳案内士専門性研修」の実施結果概要に関する事務局からの報告を受けて、改善点と次年度の事業に向けた課題等について、通訳案内士団体、旅行業界、地方自治体等の関係者で議論を行いました。

1. 開催日時、場所

日時：平成 23 年 2 月 7 日（月）16:00～18:00

場所：観光庁国際会議室

2. 出席者（省略）

3. 付議資料（省略）

【資料 1】出席者一覧

【資料 2】配席図

【資料 3】第 1 回通訳案内士研修の高度化に関する検討会（結果概要）

【資料 4】観光庁通訳案内士関係予算

【資料 5】通訳案内士専門性研修実施結果（概要版）

【資料 6】「実践派通訳案内士育成シンポジウム」開催のご案内



4. 専門性研修事業への主な意見

①通訳案内士団体からの意見

- ・前年度と比較して観光庁の予算が大幅に増額していることに感謝申し上げたい。検討委員諸氏の意見を踏まえ、今回の専門性研修をさらに発展させた研修事業にしてほしい。
- ・若い世代の人材育成に重点を置いて実施してもらいたい。
- ・希少言語の通訳案内士の養成にも配慮してほしい。
- ・通訳案内士個人や通訳案内士団体単独では実施できない研修を行ってほしい。著名な講師を招いたり、個人では行くことが難しい施設等での実地研修を盛り込んだりするよう検討をお願いしたい。
- ・若年の通訳案内士の育成をするために旅行会社の協力を得ながら実際のツアーでOJTができるような研修を行ってほしい。
- ・ただ一方的に講義を聴くだけの研修では、効果は低い。着実にスキルを向上させていくためには、受講者自らが実際に体験し、他の受講者との意見交換を行い、発表し、レポートを出すことが重要である。
- ・研修の効果は受講者のガイド経験によって、受け止め方や理解も異なるものである。現場経験年数など、受講資格を設定することでより実践的な目にみえる効果が期待できるのではないか。
- ・研修だけで満足するのではなく、自己研鑽を重ね、通訳案内士として表現する外国語のレベルアップも必要である。

②旅行会社からの意見

- ・研修期間や回数を増やして、受講者数をさらに増やしてほしい。
- ・初級、中級、上級という形でレベル分けをして、これから通訳案内士業に従事したいと思っている初級者にもチャンスを与えるべきである。
- ・スペシャル・インタレスト・ツアー（SIT）ではアカデミックな知識が求められることがある。すぐに役立つ知識と、すぐに役に立たないが必要になる知識もある。レベル別、経験の度合い別に研修を実施することでより効果的な研修になると思う。
- ・受講者同士で意見交換を行う時間を研修中に設けるのも良いと思う。
- ・受講者が非常に熱心に受講されていたのが印象的だった。
- ・京都での専門性研修では、物事の見方の多面性や比較文化など、目の前にあるものを説明する手法としていろいろな視点、見方があるという共通のテーマで各講師にご講義いただいたので、流れとして講師が訴えている内容に一貫性があるという印象を受けた。

③地方自治体、観光関係団体からの意見

- ・研修テーマや講義内容については、通訳案内士のニーズも考慮した方がよいのではないか。

- ・受講者にもいろいろなレベルがあるので、分野別、レベル別の研修を実施することによって、より効果的な研修になるのではないか。
- ・通訳案内士自身が実際に現地に赴き、自ら体験をして、実際にツアーを引率した際のイメージを持てるような研修にしてほしい。
- ・外国人旅行者のニーズは多様化しており、特にリピーターのお客様は、日本人の普段の生活文化に触れたいと思っている。そのようなニーズに応えられるような研修を実施してほしい。
- ・旅行業界としては、通訳案内士が、多種多様化している外国人旅行者のニーズに対応できるようになり、それが日本の観光立国の実現につながるのであれば、できる限りの協力をしていきたい。

④教育関係者からの意見

- ・今回の研修については、テーマの選定や研修プログラムの組み方については一貫性があり適切だったと思う。
- ・「高度化」とは、難解で深い内容を知ることではなく、外国人旅行者の多様なニーズに対応できるだけの豊かさや幅を持つことだと思う。
- ・効果的な研修とは、受講者に新たな気づきと自信を与える研修である。
- ・1日の研修では効果は低い。学んだ内容を研修の中で復習しながら学習効果を極力維持する方策を採る必要もあるのではないか。研修日数は最低2日間または3日間必要である。
- ・座学講義をただ聴くだけでなく、実際に自分で体験をして、ガイドイングをし、さらに他の受講者と意見交換をし、学んだことを共有化することを通じて新たな気づきや発見が生まれるし、接遇能力やコミュニケーション能力の向上にもなる。

以上